

2023年度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」自己点検評価

1. 学内からの視点

1.1 プログラムの履修・修得状況

リテラシー教育プログラムは、現代社会学部では、必修科目のみから構成されているため全員が受講する。単位を修得できなかった学生も、次年度以降に必ず履修し卒業までに修得することになる。子ども育成学部では、2022年度までは構成科目の一つが選択科目だったが、2023年度からその科目も必修化したので、現代社会学部と同じく全員が受講することとなった。

応用基礎教育プログラム（現代社会学部）の構成科目には、多くの選択科目が含まれている。

2023年度末時点の各教育プログラム修了者総数は以下のとおりである。

教育プログラム種別	学部	1年	2年	3年	4年	合計
リテラシー	現代社会学部	100名	117名	106名	41名	364名
	子ども育成学部	94名	44名	29名	0名	167名
	合計	194名	161名	135名	41名	531名
応用基礎	現代社会学部	0名	28名	26名	10名	64名

1.2 学修成果

現代社会学部のリテラシー教育プログラムは2020年度の1年生から、子ども育成学部のリテラシー教育プログラムは2021年度の1年生から、それぞれ開始した。現代社会学部の応用基礎教育プログラムは2020年度から開始し、2021年度に初めての修了者を認定した。

現代社会学部では、今年度の4年生の一部はリテラシー教育プログラムや応用基礎教育プログラムの修了者であり、データ分析を取り入れた卒業研究に取り組む4年生が少なくなかった。

1.3 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度

各科目を受講した学生を対象に行った授業アンケートから得られた総合評価は、次のように総じて高く、理解度も高いと推察できる。

子ども育成学部におけるリテラシー教育プログラム構成科目の2023年度学生アンケートから得られた総合評価（4段階）の各平均は以下のとおりであった。

科目名	総合評価（4段階）平均
情報処理演習	3.55
情報リテラシー	3.13

現代社会学部におけるリテラシー教育プログラム構成科目の2023年度学生アンケートから得られた総合評価（5段階）の各平均は以下のとおりであった。

科目名	総合評価（5段階）平均
ビジネス情報演習Ⅰ	3.95
ビジネス情報演習Ⅱ	4.13
情報科学概論	3.87

現代社会学部における応用基礎教育プログラム構成科目（リテラシー教育プログラム構成科目を除く）に関する2023年度学生アンケートから得られた総合評価（5段階）の各平均は以下のと

おりであった。

科目名	総合評価 (5段階) 平均
データサイエンス基礎 I	4.08
プログラミング基礎	3.84
情報社会と情報倫理	3.88
人工知能とその活用	3.91
データサイエンス実践演習 I	4.13
データサイエンス実践演習 II	4.00

1.4 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度

各科目を受講した学生を対象に行った授業アンケートから得られた総合評価は、前節のとおり総じて高く、後輩等他の学生への推奨度も高いと推察できる。

1.5 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況

リテラシー教育プログラムは、現代社会学部では、必修科目のみから構成されているため全員が受講する。単位を修得できなかった学生も、次年度以降に必ず履修し卒業までに修得することになる。子ども育成学部では、2022 年度までは構成科目の一つが選択科目だったが、2023 年度からその科目も必修化したので、現代社会学部と同じく全員が受講することとなった。

現代社会学部の応用基礎教育プログラムについては、各学期のオリエンテーションにおいて紹介し、構成科目の履修を推奨した。また、各構成科目のガイダンスでもあらためて教育プログラムとの関係を説明し、履修登録への動機付けを強化した。

その結果、以下の数の学生が 2023 年度に新たに各教育プログラムを修了した。

教育プログラム種別	学部	1年	2年	3年	4年	合計
リテラシー	現代社会学部	100名	6名	1名	0名	107名
	子ども育成学部	94名	3名	0名	0名	97名
	合計	194名	9名	1名	0名	204名
応用基礎	現代社会学部	0名	28名	10名	0名	38名

2. 学外からの視点

2.1 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価

現代社会学部のリテラシー教育プログラムは 2020 年度の 1 年生から、子ども育成学部のリテラシー教育プログラムは 2021 年度の 1 年生から、それぞれ開始した。現代社会学部の応用基礎教育プログラムは 2020 年度から開始し、2021 年度に初めての修了者を認定した。

今後、当該学生が社会に出て、それぞれの組織（企業、自治体、団体等）で数理・データサイエンス・AI を活用することが期待される。

2.2 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見

大手システムインテグレーターの人材開発担当者に対して教育プログラムの取り組みを説明し、意見をいただいた。意見の概略は以下のとおりであった（詳細は別紙「外部評価結果」に記載）。

- 全体に対する意見

- データ分析や機械学習の教育においては、理論を教えるというよりも実践の楽しさを伝えるとよい。実データの前処理を扱う授業もあるとよい。
- 実社会でよく利用されており利便性も高い VBA に触れさせる機会もあるとよい。
- 生成 AI 利用のためのプロンプト設計の難しさも伝えるとよい。
- 教育プログラム構成科目別の意見
 - 子ども育成学部「情報処理演習」(リテラシーレベル)
 - 動画コンテンツ作成に取り組む内容が含まれているのは、時代にマッチしている
とよい。
 - 現代社会学部「ビジネス情報演習 I」(リテラシーレベル、応用基礎レベル)
 - パソコンのセットアップから手厚くフォローする内容になっているのは、PC 操
作の習熟が足りていない学生が多いのでよい。いっぽう、すでに PC 操作に習熟
した学生が退屈しないようグループワークなども、別途実施するとよい。
 - 現代社会学部「データサイエンス実践演習 II」(応用基礎レベル)
 - X(旧 twitter)のデータを Web API で取得する内容が含まれているのは、Web か
らのデータ収集方法を学べることになるのでよい。

以上